



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月8日

上場会社名 ネクストウェア株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4814 URL <https://www.nextware.co.jp>  
代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）豊田 崇克  
問合せ先責任者（役職名）取締役執行役員 管理本部長（氏名）渡邊 博和（TEL）06-6281-9866  
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	1,422	20.8	△142	—	△143	—	△141	—
2024年3月期中間期	1,177	△15.8	△152	—	△145	—	△141	—

（注）包括利益 2025年3月期中間期 △141百万円（—%） 2024年3月期中間期 △141百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	△11.10	—
2024年3月期中間期	△11.12	—

#### （2）連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
2025年3月期中間期	1,465	81.0	1,187	81.0	81.0
2024年3月期	1,687	78.7	1,328	78.7	78.7

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 1,187百万円 2024年3月期 1,328百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	6.4	30	—	30	—	10	—	0.79

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	13,015,222株	2024年3月期	13,015,222株
2025年3月期中間期	308,719株	2024年3月期	308,719株
2025年3月期中間期	12,706,503株	2024年3月期中間期	12,706,503株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、一部に足踏みが残るものの、全体としては緩やかに回復しています。先行きにつきましては、緩やかな回復が続くことが期待されますが、欧米の高金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続など、海外景気の下振れが国内景気を下押しするリスクとなっております。

当社グループが所属する情報サービス産業におきましては、競争上の優位性を確立するDX(デジタルトランスフォーメーション)関連の需要が引き続き堅調に推移しており、生成AIを活用したAX(AIトランスフォーメーション)への投資が拡大すると見込まれます。また、クラウドサービス市場の拡大により情報セキュリティの重要性も高まっております。

当社グループは、ソリューション事業におきまして、今般のクラウド社会に対応すべくDX・AX事業へ積極的な投資を継続しており、安定した収益を確保できるクラウド型事業モデルへの転換を積極的に図っております。その結果、売上は増収となりましたが、今後の成長分野であるクラウドサービス事業を拡大するため、大阪市内にデータセンターを開設し、ネットワークサービスへの投資を加速いたしました。加えて、本投資に対応する次世代ネットワーク人材の採用および既存社員のスキルアップなど社内人材への先行投資を行ったことから、営業損失となりました。

エンターテインメント事業におきまして、NHK連続テレビ小説「ブギウギ」の放送を機に向上した株式会社OSK日本歌劇団の知名度を生かして、日本全国で公演を行う拡大戦略をとったことから、大幅な増収となりました。また、当社グループのシナジー効果を高めるため、2024年8月に株主優待制度を新設しました。

これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は1,422百万円(前年同中間期比20.8%増)、営業損失は142百万円(前年同中間期は152百万円の損失)、経常損失は143百万円(前年同中間期は145百万円の損失)、親会社株主に帰属する中間純損失は141百万円(前年同中間期は141百万円の損失)となり、売上高は大幅に増加し、営業損失は9百万円改善しました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① ソリューション事業

DX・AI事業においては、クラウド型ネットワークサービス事業を進めており、当社が投資したデータセンターを活用し、顧客の既存のシステムをクラウドシステムへと移行するサービスを展開しております。また、台湾SaaS企業との戦略的協業により電子署名サービスの販売も始めました。今後はMicrosoftが提供する365システムの販売およびコンサルティングを当社が行い、当事業におけるビジネスを加速させていきます。

顔認証ソリューションにおいては、従来の入退室管理に加え、万引き防止ソリューションの開発および販売を進め、大手警備会社2社との顔認証プロジェクトはPoC(概念実証)フェーズを通過し、次のフェーズへ確実に進展してまいります。また、新たなソリューションとして、人流分析ソリューションなどマーケティング事業への進出も始めました。

顧客の生成AIを作成するコンサルティング事業は、あらゆる設備データを波形データに変換し、AIに学習させるシステムソリューションです。この生成AIを用いて顧客は設備の異常予兆検知を行い、製品の品質管理に加え、あらゆる設備のメンテナンスの省力化を可能としております。特に、海外に拠点を持つ日本企業の製品の品質管理に当ソリューションが高い評価をいただいております。今後販売に注力してまいります。

防災システムにおいては、近年多発している異常気象による大規模災害に迅速かつ的確に対応するため、気象防災システムの拡充に注力してまいりました。また、自然災害発生時に地域住民が早期に安心安全を確保できるよう、地方自治体の避難システムの連携にも注力してまいりました。

これらの結果、ソリューション事業の売上高は1,111百万円(前年同中間期比7.6%増)となり、セグメント損失は136百万円(前年同中間期は115百万円の損失)となりました。

#### ② エンターテインメント事業

連結子会社の株式会社OSK日本歌劇団は、トップスターの退団公演を、4月の松竹座、7月の京都南座、8月の新橋演舞場で上演し、いずれも過去最高の来場者数を記録しました。また、5月に上演した金沢公演は、東京ブギウギなどの笠置シズ子メドレーも採用し、全席完売となりました。

9月には新トップスターの就任を発表し、記念公演やお披露目公演を告知しました。また、北海道苫小牧市で地元出身スターの凱旋公演も上演しました。新旧トップスターの交代を通じて、下期の公演ラインナップを広く周知することができました。

これらの結果、エンターテインメント事業の売上高は311百万円(前年同中間期比116.2%増)、セグメント損失は

6百万円(前年同中間期は35百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の総資産は1,465百万円となり、前連結会計年度末に比べて222百万円減少しました。これは主として、仕掛品が13百万円、有形固定資産が11百万円それぞれ増加した一方で、受取手形、売掛金及び契約資産が173百万円、現金及び預金が85百万円それぞれ減少したことによります。

負債合計は277百万円となり、前連結会計年度末に比べて81百万円減少しました。これは主として、支払手形及び買掛金が70百万円、未払法人税等が11百万円それぞれ減少したことによります。

純資産合計は1,187百万円となり、前連結会計年度末に比べて141百万円減少しました。これは、利益剰余金が141百万円減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月15日に公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	595,543	510,128
受取手形、売掛金及び契約資産	472,822	299,189
商品	36,274	40,053
仕掛品	7,749	20,757
その他	82,824	92,465
流動資産合計	1,195,215	962,593
固定資産		
有形固定資産	107,991	119,328
無形固定資産	50,989	52,250
投資その他の資産		
投資有価証券	154,813	154,813
その他	178,839	176,439
投資その他の資産合計	333,653	331,253
固定資産合計	492,634	502,833
資産合計	1,687,849	1,465,426
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	147,648	76,991
1年内返済予定の長期借入金	6,600	5,250
未払法人税等	22,308	10,459
その他の引当金	-	187
その他	169,146	173,871
流動負債合計	345,703	266,760
固定負債		
長期借入金	1,950	-
退職給付に係る負債	4,881	4,488
資産除去債務	5,512	5,513
その他	1,213	1,078
固定負債合計	13,557	11,080
負債合計	359,260	277,840
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,310,965	1,310,965
資本剰余金	229,198	229,198
利益剰余金	△106,949	△247,951
自己株式	△104,625	△104,625
株主資本合計	1,328,588	1,187,586
純資産合計	1,328,588	1,187,586
負債純資産合計	1,687,849	1,465,426

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	1,177,187	1,422,376
売上原価	895,949	1,123,016
売上総利益	281,238	299,359
販売費及び一般管理費	433,348	442,318
営業損失(△)	△152,109	△142,959
営業外収益		
受取利息	117	134
受取配当金	240	240
業務受託収入	7,450	600
その他	1,462	578
営業外収益合計	9,270	1,553
営業外費用		
支払利息	469	519
為替差損	1,824	1,425
その他	305	300
営業外費用合計	2,599	2,245
経常損失(△)	△145,438	△143,651
特別損失		
事務所改装費用	-	8,458
特別損失合計	-	8,458
税金等調整前中間純損失(△)	△145,438	△152,110
法人税、住民税及び事業税	3,009	1,900
法人税等調整額	△7,198	△13,008
法人税等合計	△4,188	△11,107
中間純損失(△)	△141,250	△141,002
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△141,250	△141,002

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純損失(△)	△141,250	△141,002
中間包括利益	△141,250	△141,002
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△141,250	△141,002



(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	エンターテイン メント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,033,273	143,914	1,177,187	—	1,177,187
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,254	12,678	15,932	△15,932	—
計	1,036,527	156,592	1,193,120	△15,932	1,177,187
セグメント損失(△)	△115,914	△35,037	△150,952	△1,157	△152,109

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	エンターテイン メント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,111,292	311,083	1,422,376	—	1,422,376
セグメント間の内部売上高 又は振替高	633	12,636	13,269	△13,269	—
計	1,111,925	323,720	1,435,645	△13,269	1,422,376
セグメント損失(△)	△136,832	△6,202	△143,034	75	△142,959

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。